

授業科目	情報科学	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 10 時間（講師別）
担 当 者	近藤 大作 （臨床経験 23 年） ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	情報を処理するためにコンピュータ及び ICT（通信情報技術）の基本的操作を身につけ、さらに倫理観に基づいて情報管理できる能力を養う。				
科目目標	1. 情報通信技術（ICT）を医療・看護に活かす方法が理解できる。 2. 情報通信（ZOOM での通信方法）を学ぶ。				
回数	授業計画・内容				方法
1 回	1. 保健医療における情報 1) 医療情報の種類、医療情報の標準化と電子化、情報リテラシー医療情報の利用と倫理 2) 医療における情報の記録、情報を共有するための方法と実際 3) 病院情報システムの活用				講義
2～3 回	2. 地域医療福祉のネットワークと情報システム 1) 医療・介護・健康分野のネットワーク化の推進 2) 遠隔医療・遠隔看護の実際 3) 地域における ICT 活用と医療上の管理に関する推進 3. 情報倫理と医療 1) 情報倫理とは				講義
4 回	4. 既存の情報の収集方法 1) 文献検索 5. 情報通信（ZOOM・グーグルクラスルームでの通信方法）				講義
5 回	6. 情報通信の演習と終了試験				実技・講義 実技・試験
准看時 授業内容					
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 別巻 看護情報学』医学書院				
評価方法	出席状況、筆記試験、課題（講義後毎回提出課題）				
関連科目					
備考	情報通信の方法を学び、実際に行う。				

授業科目	臨床判断 (変化への気づきと判断)	単位数	1 単位	時間数	15 時間
担 当 者	中山 美加 (臨床経験 5 年)	学 年	1 学年	開講年次	2 学期
目的	肝硬変の事例を用いて、病態の変化に気づき、何が起きているのか考えられるよう、共同学習 (TBL) を通して看護を導く臨床判断の基礎的能力を養う。				
科目目標	1. 消化器の正常な構造と機能から肝硬変の病態へと変化する病因と症状出現のメカニズムが理解できる。 2. 肝硬変の病態と症状と検査の関連、肝硬変の病気と症状と治療の関連について理解できる。 3. 臨床判断のプロセスを学ぶことによって、どのように反応し、行動していくのか考えることができる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 臨床判断とは 2. 肝臓の正常な構造と機能 1) 肝臓の構造と機能 2) 肝臓の代謝機能				講義・TBL 学習
2～6 回	2. 肝臓の病態の理解 (肝硬変患者の事例) 1) 病因は正常な機能に及ぼす影響 2) 病因と検査との関係 (1) 血液検査 (2) 画像検査 3) 肝硬変の症状 3. 体の変化に合わせて考える (代償期) 1) 代償期の症状と治療の関係 4. 体の変化に合わせて考える (非代償期) 1) 非代償期の症状と治療の関係 5. 体の変化に合わせて考える (肝不全) 1) 肝不全の症状と治療の関係				講義・TBL 学習
7 回	6. 体に起きていることの理解と判断 まとめ				講義
8 回	7. 終了試験				
准看時 授業内容	臨床看護概論				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器』医学書院				
評価方法	出席状況、ポストテスト 5 点×6 回 (30%)、発表 (10%)、課題 (30%)、試験 (30%)				
関連科目	解剖生理学、病態生理・病理学、疾病と治療Ⅱ、薬理学、栄養学				
備考	「なんでだろう」という気づきを大切にして、看護実践していく上で判断について学んでください。				

授業科目	生活援助技術 (感染・環境・食事・活動)	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 10 時間 (講師別)
担 当 者	諏訪加代子 (臨床経験 23 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	事例を通して、個別性を考慮した適切な判断と看護技術が実施できる。				
科目目標	1. 事例患者にとっての科学的根拠 (知識) と観察に基づいた看護技術の必要性や方法の選択が判断できる。 2. 事例患者の特性や状況に応じた技術 (安全・安楽・倫理的配慮) が実施できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 環境調整技術 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際 (1) 快適な療養環境の整備 (2) 臥床患者のリネン交換				演習
2 回	2. 食事援助の基礎知識 1) 食事栄養の意義 2) 食事と栄養に関する基礎知識 3. 食事援助の介助 (左半身麻痺患者) 1) 援助の基礎知識 2) 食事介助				演習
3 回	3) 非経口的栄養摂取の援助 (からだの知識と日常生活行動をつなぐ) (1) 経管栄養法 (2) 経鼻胃チューブの挿 (3) 中心静脈栄養法				演習
4 回	4. 活動・休息援助技術 1) 基本的活動の援助 (左半身麻痺患者) (1) 基本的活動の基礎知識 (2) 移動 ①体位変換・保持、自動・他動運動、歩行・移動介助 ②移乗介助、車椅子・ストレッチャー移送の援助				演習
5 回	2) 睡眠・休息の援助 (睡眠障害のある患者) (1) 援助の基礎知識 (2) 睡眠・休息の援助				演習
准看時 授業内容	基礎看護技術				
教科書 参考書	教科書:『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ』医学書院 参考書:『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』医学書院 『看護形態機能学ワークブック』日本看護協会				
評価方法	筆記試験				
関連科目	解剖生理学、看護学概論、生活援助技術、看護過程				
備考	演習中心の科目であり、モデルを使用し看護技術を実施します。事前学習を行い、演習に臨んで下さい。				

授業科目	生活援助技術 (清潔・排泄)	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 10 時間 (講師別)
担 当 者	遠藤 裕子 (臨床経験 5 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	事例を通して、個別性を考慮した適切な判断と看護技術が実施できる。				
科目目標	1. 事例患者にとっての科学的根拠 (知識) と観察に基づいた看護技術の必要性や方法の選択が判断できる。 2. 事例患者の特性や状況に応じた技術 (安全・安楽・倫理的配慮) が実施できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 清潔・衣生活援助技術 1) 清潔援助・衣生活の基礎知識 (からだの知識と日常生活行動をつなぐ)				講義・演習
2 回	2) 清潔援助の実際				演習
3 回	(1) 入浴・シャワー浴、足浴・手浴の介助、口腔ケア				演習
4 回	(2) 臥床患者の洗髪、整容 (3) 全身の保清 陰部の保清 (陰部洗浄)、全身清拭、寝衣交換				演習
5 回	2. 終了試験				
准看時 授業内容	基礎看護技術				
教科書 参考書	教科書:『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ』医学書院 参考書:『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』医学書院 『看護形態機能学ワークブック』日本看護協会				
評価方法	評価配分・方法【講師:遠藤裕子:35 点 (内訳 筆記試験 15 点、技術試験 20 点)】 【講師:松尾純恵:20 点 筆記試験】				
関連科目	解剖生理学、病態生理・病理学、疾病と治療Ⅱ、看護学概論、生活援助技術、看護過程				
備考	演習中心の科目であり、モデルを使用し看護技術を実施します。事前学習を行い、演習に臨んで下さい。洗髪援助技術は演習および技術チェックを行います。そのほかの清潔援助技術は、どのようにすれば安全安楽で効果的かを考えながら学生同士で練習して下さい。				

授業科目	生活援助技術 (清潔・排泄)	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 6 時間 (講師別)
担 当 者	松尾 純恵 (臨床経験 7 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	事例を通して、個別性を考慮した適切な判断と看護技術が実施できる。				
科目目標	1. 事例患者にとっての科学的根拠 (知識) と観察に基づいた看護技術の必要性や方法の選択が判断できる。 2. 事例患者の特性や状況に応じた技術 (安全・安楽・倫理的配慮) が実施できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 自然排尿および自然排便の基礎知識 1) 排泄の意義 2) 自然排尿および自然排便の基礎知識 2. 自然排尿および自然排便の介助 1) 自然排尿および自然排便の援助 (1) トイレにおける排泄介助 (2) 床上排泄援助 (3) おむつによる排泄援助 (4) ポータブルトイレでの排泄援助				講義・演習
2 回	3. 導尿 1) 一時的導尿 2) 持続的導尿 (膀胱留置カテーテルの管理含む)				演習
3 回	4. 排便を促す援助 1) 浣腸 (グリセリン浣腸) 2) 摘便 5. ストーマケア 6. 終了試験				演習
准看時 授業内容	基礎看護技術				
教科書 参考書	教科書:『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ』医学書院 参考書:『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』医学書院 『看護形態機能学ワークブック』日本看護協会				
評価方法	評価配分・方法【講師:遠藤裕子:35 点 (内訳 筆記試験 15 点、技術試験 20 点)】 【講師:松尾純恵:20 点 筆記試験】				
関連科目	解剖生理学、病態生理・病理学、疾病と治療Ⅱ、看護学概論、生活援助技術、看護過程				
備考	演習中心の科目であり、モデルを使用し看護技術を実施します。事前学習を行い、演習に臨んで下さい。洗髪援助技術は演習および技術チェックを行います。そのほかの清潔援助技術は、どのようにすれば安全安楽で効果的かを考えながら学生同士で練習して下さい。				

授業科目	診療に伴う技術	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 15 時間（講師別）
担 当 者	松尾 純恵 (臨床経験 7 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	2 学期
目的	事例を通して、個別性を考慮した適切な判断と看護技術が実施できる。				
科目目標	1. 事例患者にとっての科学的根拠（知識）と観察に基づいた看護技術の必要性や方法の選択が判断できる。 2. 事例患者の特性や状況に応じた技術（安全・安楽・倫理的配慮）が実施できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 診療・検査・処置の介助技術と症状・生体機能管理技術 1) 診察の介助、症状・生体機能管理技術の基礎知識 2) 検体検査（尿検査・便検査・喀痰検査）				講義・演習
2 回	2. 症状・生体機能管理技術 1) 血液検査（静脈血採血・血糖測定）				演習
3 回	3. 呼吸・循環を整える技術（酸素療法中の患者）				演習
4 回	1) 酸素吸入療法（酸素ボンベの操作・管理含む） 2) 排痰ケア (1) 体位ドレナージ (2) 咳嗽介助 (3) 吸引（口腔・鼻腔・気管内吸引） (4) ネブライザーを用いた気道内加湿				演習
5 回	4. 診察・検査・処置の介助技術 1) 穿刺（胸腔穿刺・腹腔穿刺・腰椎穿刺・骨髄穿刺）				講義・演習
6 回	5. 呼吸・循環を整える技術と診察・検査・処置の介助技術 1) 持続吸引（胸腔ドレナージ）（胸水貯留患者） 2) 上部消化管造影 上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査				講義・演習
7 回	6. 看護師の労働安全衛生上の事故防止 1) 放射線の被ばく防止策の実施 2) 人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施				講義
8 回	7. 終了試験とまとめ				
准看時 授業内容	基礎看護技術				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ』医学書院 参考書：『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』医学書院				
評価方法	出席状況、筆記試験、学習成果物				
関連科目	解剖生理学、病態生理・病理学、生化学				
備考	演習中心の科目であり、モデルを使用し看護技術を実施します。事前学習を行い、演習に臨んで下さい。				

授業科目	診療に伴う技術	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 15 時間（講師別）
担 当 者	諏訪 加代子 (臨床経験 23 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	2 学期
目的	事例を通して、個別性を考慮した適切な判断と看護技術が実施できる。				
科目目標	1. 事例患者にとっての科学的根拠（知識）と観察に基づいた看護技術の必要性や方法の選択が判断できる。 2. 事例患者の特性や状況に応じた技術（安全・安楽・倫理的配慮）が実施できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 与薬の基礎知識と薬剤の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）				演習
2 回	2. 経口与薬（バツカル錠、内服薬、舌下錠）の投与 3. 点眼、点鼻、経皮・外用薬の投与、座薬の投与				演習
3 回	4. 注射の基礎知識 5. 注射の実施法 1) 皮下注射 2) 皮内注射				演習
4 回	3) 筋肉内注射				演習
5～7 回	6. 注射の実施法と管理（点滴治療を受ける患者） 1) 静脈内注射 (1) ワンショット・点滴静脈内注射 (2) 静脈路確保 輸液ポンプ・シリンジポンプ（管理を含む） 2) 輸血法（輸血療法を受ける患者） 7. 針刺し事故の防止・事故後の対応				演習
8 回	8. 終了試験とまとめ				
准看時 授業内容	基礎看護技術				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ』医学書院 参考書：『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』医学書院				
評価方法	筆記試験				
関連科目	解剖生理学、病態生理・病理学、薬理学				
備考	演習中心の科目であり、モデルを使用し看護技術を実施します。事前学習を行い、演習に臨んで下さい。				

授業科目	看護過程	単位数	1 単位	時間数	30 時間
担 当 者	遠藤 裕子 (臨床経験 5 年)	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	患者が抱える健康問題を解決するための看護過程展開の技術を学ぶ。				
科目目標	1. 看護過程の基盤となるコミュニケーションの特徴と重要性が理解できる。 2. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義が理解できる。 3. 看護過程の基盤となる考え方が理解できる。 4. 看護過程の各段階の基本的な考え方を理解し、事例をもとに、看護過程の展開の実際が理解できる。 5. 看護記録の目的と留意点、その構成について理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. コミュニケーションの意義と目的				講義
2 回	2. 看護過程展開の技術 1) 看護過程とは 2) 看護過程を展開する際に基盤となる考え方 (1) 問題解決過程 (2) クリティカルシンキング (3) 倫理的判断 (4) リフレクション				講義
3 回	3. 看護過程の各段階 1 (1) アセスメント (情報の収集と分析) (2) 全体像の把握 (3) 看護問題の明確化 (看護診断)				講義
4 回	4. 看護過程の各段階 2 (1) 看護計画 (2) 実施 (3) 評価				講義
5 回	5. 看護記録				講義
6 回	6. 脳梗塞患者 (回復期) の看護展開 ・事例紹介 ・記録用紙の説明				講義
7～11 回	7. 事例を用いた看護過程の展開 情報収集・分析・関連図・看護診断・看護計画				個人ワーク
12～14 回	8. 事例を用いた看護過程の展開 関連図・看護計画 9. 事例を用いた看護過程の展開 (グループ発表)				グループ ワーク
15 回	10. 終了試験 まとめ				
准看時 授業内容	基礎看護技術				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I』医学書院 参考書：『看護診断ハンドブック』医学書院 『患者さんの情報収集ガイドブック』メヂカルフレンド社				
評価方法	学習成果物 50 点 筆記試験 50 点				
関連科目	解剖生理学、病態生理・病理学、成人看護学概論 健康の回復と看護④「脳・神経機能障害/感覚機能障害」				
備考	1. 開講前にシラバスを確認し、事例内容に必要な既習学習内容の復習を行い講義に臨んでください。 2. 学習成果物の提出については、講義開始時に提示します。提出期限が守れない場合は評価の減点対象となります。				

授業科目	フィジカルアセスメント 演習	単位数	1 単位	時間数	30 時間
担 当 者	近藤 大作 (臨床経験 23 年)	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	フィジカルアセスメントを用いた看護の実践ができるための方法を学ぶ。				
科目目標	1. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義が理解できる。 2. フィジカルアセスメントに必要な基礎的知識と系統的フィジカルアセスメントの視点が理解できる 3. フィジカルイグザミネーションの方法が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. フィジカルアセスメントに必要な基礎知識『病気とのつながり』 1) ヘルスアセスメントとは 2) フィジカルアセスメントとは 3) フィジカルイグザミネーションとは				講義
2 回	2. フィジカルアセスメントに共通する技術 (問診、視診、触診、打診、聴診)				講義・演習
3 回	3. バイタルサインの測定				講義・演習
4 回	4. 呼吸器系のフィジカルアセスメント『息をする』 1) 基本的構造と機能 2) フィジカルイグザミネーション 3) アセスメントの視点				講義・演習
5 回	5. 循環器系のフィジカルアセスメント『物質の流通』 1) 基本的構造と機能 2) フィジカルイグザミネーション 3) アセスメントの視点				講義・演習
6 回	6. 呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメント				講義・演習
7 回	7. 呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメント				〃
8 回	8. 消化器系のフィジカルアセスメント 1) 基本的構造と機能 2) フィジカルイグザミネーション 3) アセスメントの視点				〃
9 回	9. 筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメント『動く』 1) 基本的構造と機能 2) フィジカルイグザミネーション 3) アセスメントの視点				講義・演習
10 回	10. 事例検討 1) 事例から必要な情報および必要なフィジカルイグザミネーションを考える(個人ワーク)				演習 (事例検討)
11～13 回	11. 事例検討 1) 事例に対するフィジカルイグザミネーションの実際				演習 グループワーク
14 回	12. 事例検討 1) 得られた情報をアセスメントして看護を考える				演習 グループワーク
15 回	13. まとめ 終了試験				
准看時 授業内容	基礎看護技術				
教科書 参考書	教科書：『はじめてのフィジカルアセスメント』メヂカルフレンド社 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ』医学書院 『看護形態機能学ワークブック』日本看護協会				
評価方法	筆記試験、学習態度				
関連科目	解剖生理学、病態生理・病理学、疾病と治療Ⅰ～Ⅳ				

備考	目的をもった患者観察が行えるために、フィジカルイグザミネーションをどのように用いるのか、また、イグザミネーションから得られた情報をどのようにアセスメントし、看護実践につなげていくのか演習を通して理解を深めていきましょう。
----	--

授業科目	臨床看護総論	単位数	1 単位	時間数	15 時間のうち 7 時間（講師別）
担 当 者	諏訪 加代子 (臨床経験 23 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	対象の症状及び治療・処置から看護実践を展開するときの基本的な思考過程沿って看護援助を学ぶ。				
科目目標	1. 対象の症状の看護援助が理解できる。 2. 治療・処置の看護援助が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 発熱（体温管理） 1) 体温調節のメカニズム 2) 体温管理の技術（発熱・うつ熱・低体温）				講義・演習
2 回	2. 身体計測・包帯法 1) 身体計測の技術（身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲） 2) 包帯法の技術（包帯法の目的・包帯の種類・援助方法）				講義・演習
3 回	3. 生体検査の看護（肺機能検査・心電図） 1) 肺機能検査（スパイロメトリー・スパイログラム・換気障害の分類） 2) 心電図（検査の種類・標準 12 誘導心電図の援助方法） 4. 終了試験				講義・演習
准看時 授業内容	基礎看護技術、臨床看護概論				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論』 医学書院				
評価方法	出席状況、筆記試験				
関連科目	解剖生理学、病態生理・病理学、疾病と治療Ⅰ～Ⅳ				
備考					

授業科目	地域で暮らす人と看護 (長島愛生園と地域)	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 13 時間 (講師別)
担 当 者	遠藤 裕子 (臨床経験 5 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	2 学期
目的	地域の人々の暮らしと暮らしの基盤となる地域について探求し、長島愛生園の人々の暮らしの基盤となる地域について探求し、暮らしや地域の状況が健康に及ぼす影響を考える。 健康な暮らしに向けての課題について他者と共有しながら、見出していく力、またそれを伝えていく力を身につける。				
科目目標	1. 地域 (自治体・社協・患者会など) とその福祉について理解する。 2. より健康な生活に向けての支援の実際を学び、看護の役割について考えることができる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 長島の環境や人々の暮らしと健康 (課題の追求) 1) 長島愛生園で暮らす人々と入所者の理解 2) 瀬戸内市のフィールドワーク計画の立案				講義
2～4 回	2. 長島愛生園の人々と人々の暮らしの理解 1) 長島愛生園の環境・住民・暮らしの理解や暮らし				フィールドワーク
5 回	3. 長島愛生園の暮らしを理解し、健康な暮らしに向けての課題 (まとめ)				グループワーク
6、7 回	4. 長島愛生園の暮らしを理解し、健康な暮らしに向けての課題 (発表: プレゼンテーション)				プレゼンテーション
准看時 授業内容					
教科書 参考書	必要時資料配布、長島愛生園のホームページ 教科書:『系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤』医学書院				
評価方法	出席状況、プレゼンテーション、課題提出				
関連科目	地域・在宅看護概論				
備考	長島愛生園で暮らす入所者の暮らしを理解し、支援の内容や必要性を考えましょう。				

授業科目	地域で暮らす人と看護 (長島愛生園と地域)	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 15 時間 (講師別)
担 当 者	中山 美加 (臨床経験 5 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	2 学期
目的	人々の暮らしを理解し、暮らしの基盤となる地域（瀬戸内市）について理解を深める。そして、障がい者（児）とその家族が地域で暮らすための、支援の実際から、地域で暮らし続けるための支援のあり方を学ぶ。 また、学びを他者と共有しながら、見出していく力、またそれを伝えていく力を身につける。				
科目目標	1. 地域で暮らす人々の暮らしが理解できる。 2. 地域（瀬戸内市）で生活する障がい者（児）とその家族の支援の実際が理解できる。 3. 障がい者（児）とその家族が地域で生活し続けるための課題、支援方法が考えられる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 人々の暮らしの理解 1) 暮らしとは 2) 暮らしと健康の関係 3) 暮らしの中で健康を捉える				講義
2 回	2. 瀬戸内市の障害者福祉の概要 1) 人口動態 2) 瀬戸内市の特徴				グループ ワーク
3～5 回	3. 地域で生活する障がい者（児）とその家族の支援の実際 1) 放課後デイサービス 2) 小規模住居型児童療育事業 総合ケアハウスリンクス 管理者：渡邊則子				講義 フィールド ワーク
6～7 回	4. 障がい者（児）とその家族が地域で暮らし続けるための支援のあり方 1) 地域で暮らし続けるための課題 2) 地域で暮らし続けるための支援方法				グループ ワーク プレゼン テーション
8 回	まとめ				
准看時 授業内容					
教科書 参考書	瀬戸内市のホームページ 教科書：『系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論』医学書院				
評価方法	出席状況、プレゼンテーション、課題提出				
関連科目	地域・在宅看護概論				

備考	HRで総合ケアハウスに見学に行き、そこでの学びを活用しこの講義に参加しましょう。また、瀬戸内市の概要を理解し、総合ケアハウスリンクスの管理者による講義やフィールドワークから瀬戸内市における、障がい者（児）とその家族の支援の実際を学びましょう。
----	--

授業科目	地域・在宅看護 援助論 I	単位数	1 単位	時間数	15 時間
担 当 者	中山 美加 (臨床経験 5 年)	学 年	2 学年	開講年次	1 学期
目的	病気や障害を抱えながら地域・在宅で生活する療養者と家族を理解し、地域・在宅看護過程の展開を学ぶ。				
科目目標	1. 地域・在宅における看護展開の基盤となる考え方が理解できる。 2. 事例を通して、対象者のこれまでの生活や価値観を尊重しながら、地域・在宅看護の展開方法が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 地域・在宅看護過程の展開方法 1) 地域・在宅看護過程の基本 2) 地域・在宅看護過程の特徴				講義
2 回	2. 在宅で療養している COPD (慢性閉塞性肺疾患) 療養者の看護 1) 疾患の理解 COPD の病態・治療 (在宅酸素療法) ・予後・看護				演習
3～4 回	2) デイケアにおける情報の整理・援助の必要性				演習
5～6 回	3) 訪問看護における情報の整理・援助の必要性				演習
7 回	3. まとめ				講義
8 回	4. 終了試験				
准看時 授業内容	保健医療福祉の仕組み				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の 実践』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕呼吸器』医学書院 『看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術』メヂカルフレンド社 参考書：『ナースンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア』MC メディ カ出版				
評価方法	学習成果物 70 点 筆記試験 30 点				
関連科目	疾病と治療 I、地域・在宅看護概論、地域・在宅看護援助技術論、老年看護援助論、 老年看護技術論				
備考	1. 開講前にシラバスを確認し、事例内容に必要な既習学習内容の復習を行い 講義に臨んでください。 2. 学習成果物の提出については、講義開始時に提示します。提出期限が守れない 場合は評価の減点対象となります。				

授業科目	成人看護学概論	単位数	1 単位	時間数	15 時間
担 当 者	治郎丸 倫子 (臨床経験 10 年)	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	成人期の生活と健康に関する基礎的知識を基盤とし、多様な健康状態や健康問題に対応するための看護の方法を学ぶ。				
科目目標	1. 成人各期にある対象の特徴と看護の役割を理解できる。 2. 成人各期にある対象の健康の保持・増進・健康障害の予防に向けた看護が理解できる。 3. 成人期の生活や健康状態・健康問題に対する看護の考え方や方法論について理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 成人看護の理念と成人期にある対象の特徴 1) 対象の理解：発達段階・発達課題と各発達段階の特徴 2) 対象の生活：働いて生活を営むこと				講義
2 回	2. 生活と健康 1) 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 2) 保健・医療・福祉システムの概要と連携				講義
3 回	3. 成人への看護アプローチの基本				講義
4 回	1) 生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助 2) 症状マネジメント 3) 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 4) 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 5) チームアプローチ 6) 看護におけるマネジメント 7) 看護実践における倫理的判断 8) 意思決定支援 9) 家族支援				講義
5 回	4. 成人の健康レベルや状態に対応した看護 1) ヘルスプロモーションと看護				講義
6 回	5. 健康をおびやかす要因と看護 1) 健康バランスの構成要素 2) 健康バランスに影響を及ぼす要因 3) 生活行動がもたらす健康問題とその予防				講義
7 回	6. さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援 1) 移行支援の基礎知識 2) 継続的な移行を支える支援の実際				講義
8 回	7. 終了試験				
准看時 授業内容	成人看護				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論』医学書院 参考書：『国民衛生の動向』財団法人厚生統計協会				
評価方法	筆記試験				
関連科目	看護学概論 成人看護援助論Ⅰ～Ⅲ				
備考	成人期における対象は人生の中で最も変化に富み多くの影響因子が関連しています。その成人期にある対象を生活者という視点で捉え、成人看護を展開するために必要な知識を学びます。				

授業科目	成人看護援助論Ⅲ (急性期 回復期)	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 15 時間 (講師別)
担 当 者	治郎丸倫子 (臨床経験 10 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	成人期に起こりやすい健康障害の事例を通して、対象を理解し必要な看護の展開方法を学ぶ。				
科目目標	1. 手術療法が必要な患者の術前から術後の回復過程をアセスメントし、患者に必要な看護が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1～2回	1. 胃がんで腹腔鏡下幽門側胃切除術を受ける患者の術前看護 1) 術前アセスメント 病態と術前検査から予測される術後合併症のリスク 麻酔や術式から予測される術後合併症のリスク				講義
3回	2) 術前に必要な看護 術前 OR・訓練・準備 3) 術後ベッドや部屋の準備				演習
4回	2. 胃がんで腹腔鏡下幽門側胃切除術を受ける患者の術後看護 1) 術中・術後アセスメント 術中及び術後の情報から予測される術後合併症の判断				講義
5回	2) 術直後 (帰室時の看護) 3) 術後 1 日目の初回離床時の看護 点滴・ドレーン等留置のある患者の寝衣交換				演習
6回	3. 胃がんで腹腔鏡下幽門側胃切除術を受ける患者の回復期の看護 1) 胃切除に伴う機能的変化、術後経過のアセスメント				講義
7回	2) ダンピング症候群予防のための看護 (退院指導)				演習
8回	4. 終了試験とまとめ				
准看時 授業内容	成人看護				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕消化器』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論』医学書院 参考書：『看護診断ハンドブック』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論』医学書院				
評価方法	学習成果物と筆記試験で 50 点				
関連科目	看護過程、臨床判断、臨床看護総論、解剖生理学、病態生理・病理学、疾病と治療Ⅱ、成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ、フィジカルアセスメント演習、診療に伴う技術				
備考	成人看護学実習での活用ができるように、個人ワークおよびグループワークを通して、周手術期の看護の展開について理解を深めていきましょう。				

授業科目	成人看護援助論Ⅲ (慢性期)	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 15 時間 (講師別)
担 当 者	遠藤 裕子 (臨床経験 5 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	成人期に起こりやすい健康障害の事例を通して、対象を理解し必要な看護の展開方法を学ぶ。				
科目目標	健康障害のある成人及び家族の看護過程の展開ができる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1～2 回	1. 肺がんで化学療法を受ける患者の看護 1) 肺がんの経過と看護 2) 化学療法をうける患者の看護 3) 放射線療法をうける患者の看護 4) 安楽に関する症状を示す患者への看護				講義 個人ワーク グループ ワーク
3～7 回	2. 肺がんで治療を受ける患者の事例を用いた看護過程の展開				講義 個人ワーク グループ ワーク
8 回	3. 終了試験とまとめ				
准看時 授業内容	成人看護				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論』医学書院 参考書：『看護診断ハンドブック』医学書院				
評価方法	学習成果物と筆記試験で 50 点				
関連科目	看護過程、病態生理・病理学、疾病と治療Ⅰ、薬理学、成人看護学概論、 フィジカルアセスメント演習				
備考	1. 開講前に事例を配布します。事例内容に必要な既習学習内容の復習を行い講義に臨んで下さい。 2. 学習成果物は、最終提出を含め 3 回予定します。提出期日が守れない場合は評価の減点対象となります。				

授業科目	老年看護学概論	単位数	1 単位	時間数	15 時間
担 当 者	松尾 純恵 (臨床経験 7 年)	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	1. 高齢者の身体的・精神的・社会的側面の変化が高齢者の生活や健康に及ぼす影響と高齢者の QOL を関連づけて高齢者を支える看護を学ぶ。 2. 高齢者を支える制度や社会資源の看護の場における活用方法を学ぶ。				
科目目標	1. 高齢者の身体的・精神的・社会的変化が健康課題に及ぼす影響が理解できる。 2. 高齢者の QOL に着目した看護が理解できる。 3. 社会構造の変化・高齢化に伴う高齢者の保健福祉の活用方法が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 高齢者の理解 1) 老いるということ 2) 老いを生きるということ				講義 グループ ワーク
2 回	2. 老年期を生きる人々の特徴 1) 身体機能の生理的变化 2) 精神・社会的変化				グループ ワーク 発表
3 回	3. 超高齢社会と社会保障 1) 高齢者の健康と意義 2) 統計について				講義
4 回	3) 高齢社会における保健医療福祉の動向 4) 権利擁護				講義
5 回	4. 老年看護のなりたち 1) 老年看護の役割特徴について 2) 老年看護における倫理・概念				講義
6～7 回	5. 高齢者のヘルスアセスメント 1) ヘルスアセスメントの基本 2) 身体的加齢変化とアセスメント				講義
8 回	6. 終了試験				
准看時 授業内容	老年看護				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 老年看護学』医学書院 『系統看護学講座 老年看護病態・疾患論』医学書院 参考書：『国民衛生の動向』財団法人厚生統計協会				
評価方法	出席状況、学習成果物、筆記試験				
関連科目	老年看護援助論、老年看護技術論、社会福祉、看護倫理、地域・在宅看護概論				
備考	1. 加齢現象を踏まえた高齢者理解ができるために、学習方法にグループワークを取り入れます。 2. 学習の過程で、高齢者の QOL を考えた看護を意識しながら学んでいきましょう。				

授業科目	老年看護技術論	単位数	1 単位	時間数	30 時間 のうち 15 時間（講師別）
担 当 者	諏訪 加代子 (臨床経験 23 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	2 学期
目的	加齢による変化を踏まえた患者理解を通して、高齢者の QOL を考慮した看護の展開方法を学ぶ。				
科目目標	老年看護を実践するために必要な基本的思考過程が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 事例を用いた看護過程の展開（脳梗塞の高齢者の事例）① ・事例紹介 ・情報の整理・分析・解釈、看護問題の明確化				講義 個人ワーク
2 回	2. 事例を用いた看護過程の展開② ・情報の整理・分析・解釈、看護問題の明確化のポイント ・関連図作成・看護計画の立案				講義 個人ワーク
3 回	3. 事例を用いた看護過程の展開③ ・看護計画の立案 ・本日の看護計画				グループ ワーク
4 回	4. 事例の看護実践の演習 ・本日の看護計画の実践				グループ ワーク
5～6 回	5. 事例の看護実践（公開演習） ・本日の看護計画の実践 ・実施したことのふりかえり				グループ ワーク
7 回	6. 事例の看護実践の評価 ・看護実践の記録 ・評価、計画の修正追加				講義
8 回	7. 終了試験とまとめ				
准看時 授業内容	老年看護				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 老年看護学』医学書院 『系統看護学講座 老年看護病態・疾患論』医学書院 参考書：『看護診断ハンドブック』医学書院 『患者さんの情報収集ガイドブック』メヂカルフレンド社				
評価方法	出席状況、学習態度、学習成果物				
関連科目	解剖生理学、病態生理・病理学、成人看護学概論 健康の回復と看護④「脳・神経機能障害/感覚機能障害」 看護過程、老年看護学概論、老年看護援助論				
備考	1. 開講前に事例を提示します。事例内容に必要な学習を行い講義に臨んで下さい。 2. 学習成果物での評価となります。提出日が守れない場合は、評価の減点対象となります。				

授業科目	小児看護学概論	単位数	1 単位	時間数	30 時間
担 当 者	治郎丸 倫子 (臨床経験 10 年)	学 年	1 学年	開講年次	2 学期
目的	子どもの成長・発達の特徴を理解し、健全な成長・発達を促すための関わり方について学ぶ。また、子どもを取り巻く保健・医療・福祉について学ぶ。				
科目目標	1. 子どもと家族の概況・倫理的観点を知り、小児看護の役割と課題を理解する 2. 子どもの成長・発達の基本的な原則を理解する。 3. 各発達段階に応じた子どもの成長・発達を理解する。 4. 子どもと家族を取り巻く環境や社会を理解する。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1～2回	1. 小児看護の特徴と理念 1) 小児医療・看護の変遷と課題 2) 小児看護の目標と役割 3) 小児医療・小児看護における倫理				講義
3～4回	2. 子どもと家族を取り巻く環境と入院環境 1) 児童福祉 2) 母子保健 3) 医療費の支援 4) 予防接種 5) 学校保健 6) 食育 7) 特別支援教育 8) 臓器移植法				講義
5回	3. 子どもの成長・発達 1) 成長・発達とは 2) 成長・発達の進み方 3) 成長・発達に影響する因子 4) 成長・発達の評価				講義
6～12回	4. 各発達段階の子どもの成長・発達と支援 1) 形態的特徴と身体生理の特徴、各機能の発達 2) 知的発達と心理社会的適応に対する問題と支援方法				講義 グループ ワーク 演習
13～14回	5. 家族の特徴と家族アセスメント 1) 家族とは 2) 現代家族の特徴 3) 家族アセスメント				講義
15回	6. まとめ 終了試験				
准看時 授業内容	母子看護、人間と生活・社会、栄養、保健医療福祉の仕組み、看護と法律				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論』 医学書院 参考書：『国民衛生の動向』 財団法人厚生統計協会				
評価方法	筆記試験				
関連科目	心理学、人間関係論、看護倫理、社会福祉、公衆衛生、母性看護学概論				
備考	小児看護の対象である子どもについて理解を深めましょう。子どもを取り巻く環境として、現代家族・社会の状況を学習します。子どもに関する施策や多発する事故について関心を持ち、新聞記事やニュースを見て下さい。				

授業科目	小児看護援助論	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 15 時間（講師別）
担 当 者	治郎丸 倫子 (臨床経験 10 年) ※他担当者あり	学 年	2 学年	開講年次	1 学期
目的	健康障害がある子どもや家族の特徴を理解し、子どもの疾病の経過と発達段階を踏まえた看護を学ぶ。				
科目目標	1. 健康障害を持つ子どもと家族の特徴と看護の役割が理解できる。 2. 健康障害がある子どもの疾病の経過から看護の特徴が理解できる。 3. 健康障害がある子どもに必要な看護援助が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護				講義・演習
2 回	2. 子どもにおける疾病の経過と発達段階をふまえた看護 1) 急性期にある子どもと家族の看護 2) 慢性期にある子どもと家族の看護				講義・演習
3 回	3) 終末期の子どもと家族の看護 4) 周手術期の子どもと家族の看護 5) 在宅で生活をする子どもと家族の看護				講義・演習
4～7 回	3. 健康障害がある子どもと家族の看護展開（白血病）				ロールプレイ
8 回	4. 終了試験とまとめ				
准看時 授業内容	母子看護				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論』医学書院 参考書：『根拠と事故防止からみた小児看護技術』医学書院				
評価方法	学習成果物（30 点）、筆記試験（20 点）				
関連科目	看護過程、フィジカルアセスメント演習、小児健康論				
備考	子どもにおける疾病の経過と発達段階をふまえた看護で経過別・各発達段階別の事例を通じて看護の考え方を学習します。疾病の病態や治療・看護を学習し、授業に臨んで下さい。				

授業科目	精神看護学概論	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 11 時間（講師別）
担 当 者	中山 美加 (臨床経験 5 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	2 学期
目的	1. 人の心の諸活動としくみについて学び、看護の対象理解を深める。 2. 自分と相手を知り、関係をアセスメントすることで、精神障がいをもつ人へのケアの基本的な方法を学ぶ。				
科目目標	1. 人間の心の構造と発達、自己が形成される過程を理解できる。 2. 看護の対象としての家族と集団について理解できる。 3. 自分を知り、相手を知ることがケアの人間関係のもとになることが理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 精神看護学で学ぶこと 1) 精神看護学とはなにか 2) 精神障がいをもつ人の病いの体験と精神看護 3) 「心のケア」と日本社会 4) 精神看護の課題				講義
2 回	2. 心のはたらきと人格の形成 1) 心のはたらき 2) 心のしくみと人格の発達				講義
3 回	3. 関係のなかの人間 1) システムとしての人間関係 2) 全体としての家族 3) 人間と集団				講義
4～6 回	4. 5. ケアの人間関係 1) ケアの前提 2) ケアの原則 3) ケアの方法 4) 関係をアセスメントする 5) 患者-看護師関係における感情体験 (1) 患者-看護師理論 ①ペプロー、トラベルビー、川野雅資、外口玉子 6) チームのダイナミクス				講義
准看時 授業内容	精神看護				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕精神看護の基礎』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔2〕精神看護の展開』医学書院				
評価方法	出席状況、筆記試験				
関連科目	心理学、人間関係論、精神健康論				
備考					

授業科目	精神看護援助論	単位数	1 単位	時間数	30 時間
担 当 者	近藤 大作 (臨床経験 23 年)	学 年	2 学年	開講年次	1 学期
目的	統合失調症患者の事例を通して看護過程の展開を学ぶ。また対人関係を基盤とした援助の態度を学ぶとともに、自己洞察し治療的コミュニケーション技法を学ぶ。				
科目目標	1. 事例を用いて精神に障がいを持つ対象を理解できる。 2. 精神障がいをもつ対象の状況に応じた精神看護の方法を理解できる。 3. 精神障がいをもつ患者へのかかわり方(コミュニケーション方法)が理解できる。 4. 精神障がいをもつ患者に対する人間関係の発展関係理論が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 統合失調症患者の看護				講義
2～5 回	1) 事例紹介				個人ワーク
	2) 情報の整理				
	3) 精神看護の展開				
6 回	(1) 情報の分析・解釈				グループ ワーク
	(2) 精神患者の理解				
	(3) 関連図の作成				
7 回	(4) グループワーク関連図				個人ワーク
8 回	(5) 看護計画立案				講義
9～10 回	4) 統合失調症患者の看護過程の展開まとめ				講義
11～14 回	2. 精神障がいをもつ人とのコミュニケーション				講義
	1) コミュニケーション				
	(1) 精神看護におけるコミュニケーションの方法				
	(2) 治療的(効果的)コミュニケーション、非言語的 コミュニケーション				
	2) 精神症状のある患者とのコミュニケーション				
15 回	(1) 幻覚妄想状態にある患者とのコミュニケーション				演習
	(2) 躁状態にある患者とのコミュニケーション				
	(3) うつ症状のある患者とのコミュニケーション				
	3) 精神障がいをもつ人との関係の振り返り				
	(1) 振り返ることの意味(リフレクション)				
	(2) プロセスレコードによる自己の振り返り				
	3. 終了試験 まとめ				
准看時 授業内容	精神看護				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕精神看護の基礎』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔2〕精神看護の展開』医学書院 参考書：『看護診断ハンドブック』医学書院				
評価方法	出席状況、学習態度、学習成果物、筆記試験				
関連科目	精神看護学概論、精神健康論				
備考					

授業科目	臨床看護技術演習	単位数	1 単位	時間数	30 時間
担 当 者	中山 美加 (臨床経験 5 年)	学 年	2 学年	開講年次	2 学期
目的	実践に即した技術演習を通して、専門職としての責任感と倫理観を身につける。				
科目目標	1. 複数患者の看護実践を通して優先順位・時間配分を判断することができる。 2. 状況に応じた対応および医療チームの連携の重要性が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 複数患者への看護実践とは 1) 時間配分や優先度の考え方 2) 予期しない患者の反応への予測と対処方法の選択 3) 看護マネジメントにおけるチームメンバーとの連携・協働				講義
2 回	2. 患者の持つ権利と倫理観に基づいた看護実践				個人ワーク
3 回	3. 複数患者の看護記録 1) 複数患者への看護援助の時間配分や優先順位の判断				個人ワーク
4 回	4. 複数患者の把握 1) 複数受け持ち患者 (2 事例) の全体像の把握				個人ワーク
5 回	5. 複数患者の把握・看護実践の検討 1) 複数受け持ち患者 (3 事例) の全体像の把握 2) 複数受け持ち患者 (3 事例) の看護実践の検討				個人・グループワーク
6～7 回	6～7. 複数患者の状況判断の検討 1) 複数受け持ち患者 (3 事例) の状況判断の検討				個人・グループワーク
8～9 回	8～9. 複数患者の状況判断と看護実践の検討 1) 複数受け持ち患者 (3 事例) の状況判断と看護実践の検討				演習
10～11 回	10～11. 受け持ち患者 (3 事例) の各事例における看護の実践 1) 受け持ち患者の状況判断と看護実践				公開演習
12～13 回	12～13. 複数患者への看護の実践 1) 複数受け持ち患者 (3 事例) の状況判断と看護実践				個人ワーク
14 回	14. 複数患者への看護実践の振り返り				個人ワーク
15 回	15. 終了試験・まとめ				
准看時 授業内容					
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔1〕看護概論』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ』医学書院				
評価方法	学習成果物、筆記試験				
関連科目	診療に伴う技術、微生物、医療安全、看護管理、看護倫理				
備考	脳梗塞、慢性心不全、輸液療法、基本的な日常生活援助が学習できる準備をしてくて下さい。				

授業科目	災害・国際看護	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 8 時間（講師別）
担 当 者	遠藤 裕子 (臨床経験 5 年) ※他担当者あり	学 年	2 学年	開講年次	2 学期
目的	災害看護の基礎的知識を学ぶ。				
科目目標	1. 災害の定義および災害医療の概要が理解できる。 2. 我が国における過去の災害から基礎知識を学び、災害各期におけるネットワーク、多職種との連携の実際が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1～4 回	1. 被災地と被災者の理解と生活の支援 1) 避難所での生活 2) 避難所での看護師の役割 ・被災者の健康及び生活状況のアセスメント				講義 演習
准看時 授業内容					
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践〔3〕災害看護学・国際看護学』医学書院				
評価方法	出席状況、筆記試験				
関連科目					
備考					